

①授業をしてみて感じたこと、見えてきたこと

教育実習を振り返って、私にとって非常に濃い3週間となった。初めて「先生」と呼ばれる立場に立ち、生徒に認めてもらえるか不安を抱えながらのスタートだったが、授業や日々の関わりの中で、自分なりに学びや成長を実感できた。実習校では、2日目からすぐに授業を任された。初めての授業は4クラス合同で行うラジオ体操の指導で、まとまりを作ることに苦戦した。しかし、動きのポイントを細かく伝え、数字のカウントより、言葉のカウントをする工夫を続けることで、生徒の集中が持続し、最終的には全員がラジオ体操第二をできるようになった。この経験から、指示の出し方一つで授業の流れが変わるということを強く学んだ。一方で、卓球の授業では指導の順序を整理できず、授業運営が滞る場面があった。その反省を生かし、指導案に自分の行動まで細かく記すようにしたことで、回数を重ねるごとに円滑に授業を進められるようになった。また、保健の授業では「喫煙と健康」を扱った際、教材研究不足により内容が薄くなり、生徒の学びにつながらなかったことがあった。この失敗から、教材研究の深さが授業の質を左右することを痛感した。

②生徒との交流の中で学んだこと

生徒と日々接する中で、単に知識を伝えるだけでなく、どうすれば生徒が主体的に学びたいと思えるかを意識することの大切さに気づいた。例えば、保健の授業で最新のニュースやロールプレイングを取り入れたところ、生徒の表情が変わり、前向きに授業へ参加してくれるようになった。その瞬間、自分の思いが伝わっていると感じ、大きなやりがいを得られた。また、普段の会話や休み時間の交流の中で、生徒の小さな変化や思いを感じ取り、それを授業に生かすことの重要性も学んだ。授業外での関わりが、授業内での信頼関係につながっていることを実感した。

③職員室の様子から学んだこと

職員室での先生方の姿を見て、教員の仕事の多様さを改めて知った。授業準備や成績処理だけでなく、生活指導や行事運営、生徒一人ひとりへの対応など、日々多岐にわたる業務を担っていた。その中でも先生方は常に生徒の成長を第一に考え、支えている姿が印象的だった。研究授業の際には多くの先生方に参観していただき、授業の強みや改善点について具体的なフィードバックを受けた。特に「授業に強弱がなく淡々としてしまう」という指摘は今後の大きな課題であり、表現力や抑揚を意識した授業展開の必要性を学んだ。

④事前に立てた目標及び課題について

実習前に「生徒に考えさせる授業をつくる」という目標を立てた。しかし、当初は教材研究不足や進行の不慣れから達成できない場面も多かった。徐々に改善を重ねる中で、問いかけの工夫や活動の導入を試みることで、少しずつ生徒が主体的に学ぶ姿が見られるようになった。完璧には至らなかったが、課題を意識し続けたことで、自身の授業観が深まったと感じている。

⑤教育実習全般を通して

この実習を通じて、授業づくりの難しさとやりがい、そして教員という職業の重みを実感した。失敗の連続ではあったが、その一つ一つが学びとなり、自分を成長させてくれた。教員は生徒の成長を願い、支える存在であるということを改めて感じ、将来、自分もそのような教員になりたいと強く思った。

⑥その他

後悔編：もっと教材研究に時間を割き、具体的な授業展開をシミュレーションしておくべきだった。特に保健の授業では、知識だけでなく生徒の興味を引く工夫が足りなかったことが反省点である。

推奨編：授業見学の時間を多くとったことは大きな財産となった。他の先生方の授業を比較し、自分の授業に取り入れるヒントを得られたことは、これから実習に臨む人に強く勧めたい。